

---

# 偶然の確率

シンクレア

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

偶然の確率

### 【ZPDF】

Z0145F

### 【作者名】

シンクレア

### 【あらすじ】

偶然の確率つていいくらだと思つ?

## 偶然の確率（前書き）

この話はすべてフィクションです

## 偶然の確率

偶然の確率つていいくらだと思ひつ。

偶然とは運命

あなたがそこに今いるのも

なにもかもが運命

あの人に出会つたのも運命

そして偶然だつた

当時おれは中学生

毎日毎日が同じことの繰り返し

大人達は言うよ

勉強しろ！と

## 転向

毎日毎日が同じことの繰り返し

学校へ行き勉強し

塾へ行き勉強し

家でも勉強する

親がおれを少しでも良い学校へ行かせたいからだ

その理由は自分にはわからない

逆らえば怒られ

さらに逆らえば拳が飛んでくる

つまりおれの学校は都内でも進学校

といつわけでもない

中学受験に失敗したからだ

あの時は親にはボロクソ言われ

親族や周りからダメなヤツだと冷たい目で見られた

なんでやりたくもない勉強をせられ

うまく行かなかつたらこんなことになるんだ?

初めて死にたいと思った

自殺を考えた

だが死ねなかつた

死への恐怖に負けたんだ

そん時から本当の自分はだれにも見せなくなつた

他人が怖く思つようになった

心から信用することなんて無くなつた

外面では一コ一コしてて

内面では特になんも思わない

そんな人間関係

親友なんていない

大した思い出も無い

そんなわけでおれの中学2年間はあつといつ間に終わるうとしてた

あの日、

いつもどつり塾から帰つてきたおれはいつもどつり一人で晩御飯を食べ

親が仕事から帰ってくるのはもつと後の時間

テーブルにふと紙切れがあることに気が付いた

それを見ておれはがく然とした

書いてあつた内容は

両親はもつ帰つてこないと書つて

学校へ転向の手続きはしてあるとこつ」と

おれは北海道の道東の聞いたことも無い町に転向する」となつて  
いるところだと

そして明日の北海道、千歳空港行きのチケットと

千歳空港からその町の空港へのチケット

そして2万円だった

おれは親にさえ捨てられたのだと自分なりに理解した

その夜、おれ泣いて眠れなかつた

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0145f/>

---

偶然の確率

2010年10月12日02時04分発行